

組織横断的な業務共有の取組み

山口 貴幸 環境・建設技術分野

1. はじめに

大学内で行われている実験において、しばしば技能講習修了などによる資格を必要とする作業を行うことがある。本学で特に頻繁に行われている資格作業としては、クレーン運転・玉掛、研削砥石の交換、低圧電気取扱などがある。我々技術職員は、多くの必要な資格を保有し、安全かつ法に準じて実験作業を進行できるように支援することを業務の1つとしており、大学の安全管理の上で、重要な役割を担っている。

また、技術支援センター発足以降、大学の発展に貢献するためには、技術職員同士の連携を深めることが重要であるとの共通認識がある。今回の取組みでは、共有している技術を生かし、いままで技術職員の支援が行き渡らなかった部分に対して、分野の境界を超えた協働態勢を整えることを意識して、新たな業務体制作りに取り組んだ。

2. 技術開発センターでの資格作業について

本学の技術開発センターは、学内外の研究者によって実験スペースとして利用されているが、技術職員は常駐していない。そのため、ここで作業している学生などから、「クレーン作業が必要だが身近に有資格者がいなくて困っていて、誰に頼んでいいかわからない」という相談が時折寄せられていた。その度に、たらい回しのような状況の

あとで、その相談を受けた技術職員が対応していた。そのような対応方法では非常に無駄が多く、無資格者の作業によって事故が発生することに繋がる恐れがあるため、技術開発センターにおける業務体制を整備することにした。担当する技術職員は、分野の境界を超えた体制を作ることを意識し、複数の職員で業務を共有する体制とした。

3. 業務体制整備と結果

技術開発センターで必要とされる資格作業は、クレーン（図1）に関連するものがほとんどだった。業務体制を作る際、この資格の保有者から、表1のメンバーを選出し、業務を共有して行うこととした。次に、相談受付の連絡先を技術開発センター利用者に貼り紙を掲示して示した。これらについて、利用者からは下記の意見があった。

- ・クレーン作業が急に必要になる場合があり、掲示で相談先が分かるので安心できる。
- ・実験計画の策定段階から、装置サイズや作業方法に自由度が増すので助かっている。

このような意見から分かるように、柔軟な姿勢で協働態勢を整え、我々の技術をより効率的に活用しやすくすることが、研究しやすい環境づくりになり、大学全体への貢献に繋がる。今回は1例に過ぎないが、様々な機会で見たい。

表1 技術開発センター担当技術職員一覧

氏名	所属
○山口 貴幸	環境・建設分野
渡邊 高子	化学・生物分野
高田 晋	環境・建設分野
大塩 茂夫	化学・生物分野



図1 天井クレーン（技術開発センター）